

福祉サービス第三者評価結果報告書(平成25年度)

2014年 3月 24日

港区長 殿

郵便番号 110-0016

所在地 東京都台東区台東3-2-5大林ビル2F

有限会社 エテルノ

評価機関名

認証評価機関番号

機構 06 - 169

電話番号 03-5812-0840

代表者氏名 山崎 剛志

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者養成講習修了者番号・担当分野	修了者番号		担当分野
	①	H0601040	経営
	②	H0601067	福祉
	③	H0202027	経営
	④	H1301009	福祉
	⑤		
⑥			
福祉サービス種別	港区緊急暫定保育施設		
調査対象事業所名称	港区桂坂保育室		
事業所連絡先	郵便番号	108-0074	
	所在地	東京都港区高輪3-19-36	
	電話番号	03-5475-6646	
事業所代表者氏名	伊東 正子		
契約日	2013年 8月 8日		
利用者調査票配付日(実施日)	2013年 10月 8日		
利用者調査結果報告日	2014年 1月 15日		
自己評価の調査票配付日	2013年 10月 7日		
自己評価結果報告日	2014年 1月 15日		
訪問調査日	2014年 1月 22日		
結果合議日	2014年 3月 3日		
コメント (利用者調査の工夫点、補助者・専門家等の活用などを記入)	保育園の協力のもと利用者調査用紙を保護者(園児)へ配布して頂いた。回収については、保育園の協力のもと保護者から回収をして頂き、まとめて評価機関宛てに郵送して頂いた。第三者を確保するために、無記名での回収をする趣旨を利用者調査ご協力のお願い文などを別紙に作成し配布した。		

評価機関から上記及び別紙の調査結果を含む調査結果報告書を受け取りました。

2014年 3月 22日

事業者代表者氏名 港区桂坂保育室 園長 伊東 正子

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>【保育理念】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●子どもにとって快適、清潔で安全・安心な環境を整える。 ●子どもの「自ら伸びようとする力」「後伸びする力」を育む。 ●子どもの感受性や好奇心を自然な形で伸ばし「五感で感じる力」を育む。 <p>【園目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●心も体もしなやかでたくましい子。 ①「身の回りのことが自分でできる子」 ②「自分の思いを素直に表現し友達も大切にする子」 ③「好奇心にあふれ探究心旺盛な子」 <p>【基本方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●生きる力の基礎を身に付ける保育を実践する。 ①生活する力 健康・体力につながる基本的な習慣、運動しようとする態度を育てる。 ②関わる力 豊かな人間性につながる、聞く・話す・伝え合う・決まりを守る等の習慣や態度、自己抑制力を養う。 ③学ぶ力 確かな学力につながる学びの芽生え、言葉の獲得、探究する力、表現する力を養う。
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>（1）職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ①保育に自分のロマンを持ち、専門職として知識、技術、判断力を日々高められる人材。 ②職員一人一人が園運営の担い手であるという自覚と責任を持ち、創意工夫を生かした園作りに積極的に取り組む人材。 ③心身ともに健康な人材。 <p>（2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感）</p> <ul style="list-style-type: none"> ①職種に関らず、一人ひとりの子どもを愛し、自分が子どもを見守っている責任感を持つ。 ②それぞれの職種のプロフェッショナルとしての認識と役割を持ち、常に向上を目指す。 ③チームの一員として協調性をもって職務に取り組む。

調査対象	保育園に通っている園児の世帯に対して調査を行なった。同一保育園に2名以上の園児を預けている場合には、年齢の一番低い園児に対して回答して頂いた。
調査方法	アンケート調査は無記名方式とし、保育園を通じて保護者へ配布しました。 アンケート用紙の回収方法は、園に設置した回収箱による回収または、返信用封筒による評価機関へ直接郵送する方式としました。
利用者総数	213
共通評価項目による調査対象者数	213
共通評価項目による調査の有効回答者数	108
利用者総数に対する回答者割合(%)	50.7

利用者調査全体のコメント

総合的な感想として園に対する満足度は、「大変満足」39.8%、「満足」53.7%の計93.5%である。
 自由意見では、「職員は想像以上に熱心でとても優しく、利用しやすい環境だと思います」「保護者の負担を軽減する工夫をしてくださり、大変感謝しています」「英語やリトミック・体操のような取り組みがあるのは、すごくありがたいです」など、子どもや保護者への配慮など職員の対応、日常の保育などに対する感謝の声が寄せられている。
 向上・検討を望む意見としては、保護者とのコミュニケーションに関することや保育内容、職員の子どもや保護者への対応、設備に関する事など、回答者個々の考え方や気になる点などから、それぞれに声が寄せられている。
 設問別では、「食事」「保育時間の変更」「体調変化」「安全対策」「行事日程」「信頼関係」「聞く姿勢」「プライバシーの保護」「子どもは大切」「職員の丁寧な対応」「要望や不満の言いやすさ」「サービス内容の説明」などの15問中12問が80%以上の支持を得ており、50%台を下回ったのは「第三者委員への相談」の1問である。それ以外の設問は70%前半～70%後半の支持を得ている。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	102	5	1	0
「はい」の回答は94.4%、「どちらともいえない」の回答は4.6%、「いいえ」の回答は0.9%であった。 自由意見では、「いろいろな食材を使っていたが、子どもが野菜などの名前を覚える」「行事メニューが月1回あり、見た目も楽しくていいと思います」「旬の物をいろいろなメニューで食べさせてくれるので助かっています」「毎月の行事に合わせたメニューや食育にも配慮していただけており、大変ありがたいです」という声が寄せられていた。				
2. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	85	17	5	1
「はい」の回答は78.7%、「どちらともいえない」の回答は15.7%、「いいえ」の回答は4.6%、「無回答・非該当」の回答は0.9%であった。 自由意見では、「園庭が都会にしては広いので、子どもは嬉しいと思います」「土に触れるなど自然を通しての遊び・学習をしてくださっています」「都心にありながら、最大限自然と触れあっています」という声が寄せられている一方、「夏季のプール遊びは、もう少しやってほしかったです」という意見が寄せられていた。				
3. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	100	2	3	3
「はい」の回答は92.6%、「どちらともいえない」の回答は1.9%、「いいえ」の回答は2.8%、「無回答・非該当」の回答は2.8%であった。 自由意見では、「17時までの連絡で食事・預かりなど対応していただき、本当に助かります」「当日の急な変更にも対応してもらえ、非常に助かっています」「当日の夕方以降でも快く対応してくださって、本当に助かっています」「電話をすると、いつも感じよく受けてくれる」という声が寄せられていた。				

4. 子どもの体調変化への対応(処置・連絡)は、十分か	91	11	5	1
「はい」の回答は84.3%、「どちらともいえない」の回答は10.2%、「いいえ」の回答は4.6%、「無回答・非該当」の回答は0.9%であった。 自由意見では、「気にかかること(体温高めなど)も、朝伝えておくとお対処してくれ助かっています」「急に会社を出られないときも、理解して下さいます」「すぐに連絡してくれます」という声が寄せられていた。				
5. 安全対策が十分取られていると思うか	89	9	10	0
「はい」の回答は82.4%、「どちらともいえない」の回答は8.3%、「いいえ」の回答は9.3%であった。 自由意見では、「自宅以上に安全な環境だと思います」という声が寄せられている一方、「子どもの人数が多いので仕方ないですが、階段などで子どもたちがふざけているときに先生がいないことがあります」「園庭までは出入が自由なので、少し不安です」という意見が寄せられていた。				
6. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	96	9	3	0
「はい」の回答は88.9%、「どちらともいえない」の回答は8.3%、「いいえ」の回答は2.8%であった。 自由意見では、「土曜・日曜なのでありがたい。時間の設定も午前なので良い」「行事は土・日・祭日が多く、参加しやすいです」という声が寄せられている一方、「土・日に行事があるので参加しやすいのですが、1ヶ月以上前にアナウンスしてほしい」という意見が寄せられていた。				
7. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	91	10	7	0
「はい」の回答は84.3%、「どちらともいえない」の回答は9.3%、「いいえ」の回答は6.5%であった。 自由意見では、「先生から気づいたことなど話してくれるので助かります」「先生はとても話しやすく親身になってくれます」「時々個人面談が設けられ、相談できる」「発達について心配なことがあったりすると質問に的確に答えてくださり、また個別に観察してくださっていると思います」という声が寄せられている一方、「できる先生とできない先生がいる」という意見が寄せられていた。				
8. 保護者の考えを聞く姿勢があるか	91	13	3	1
「はい」の回答は84.3%、「どちらともいえない」の回答は12.0%、「いいえ」の回答は2.8%、「無回答・非該当」の回答は0.9%であった。 自由意見では、「可能な限り対応してくれていると思う」「先生は親身になって話を聞いて下さいます」「保護者会のときなどは、よく話し合いがなされていると思う」という声が寄せられている一方、「忙しそうなのでゆっくり話す機会は少ないです」「大切と思っていることが伝わっていないと感じる」という意見が寄せられていた。				
9. サービス提供にあたって、利用者のプライバシーは守られているか	93	7	3	5
「はい」の回答は86.1%、「どちらともいえない」の回答は6.5%、「いいえ」の回答は2.8%、「無回答・非該当」の回答は4.6%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
10. 一人ひとりの子どもは大切にされていると思うか	101	3	2	2
「はい」の回答は93.5%、「どちらともいえない」の回答は2.8%、「いいえ」の回答は1.9%、「無回答・非該当」の回答は1.9%であった。 自由意見では、「子どもが楽しそうに先生の話をしているので大丈夫だと思う」「子ども目線での興味などに正面から向き合っているだけだと思います」という声が寄せられている一方、「先生によります」という意見が寄せられていた。				

11. 職員の対応は丁寧か	95	8	3	2
「はい」の回答は88.0%、「どちらともいえない」の回答は7.4%、「いいえ」の回答は2.8%、「無回答・非該当」の回答は1.9%であった。自由意見では、「先生は、いつも笑顔で挨拶してくれます」「とても気持ちよく接して下さいます」「とても礼儀正しいです」という声が寄せられている一方、「職員によってバラつきがある」という意見が寄せられていた。				
12. 要望や不満を事業所に言いやすいか	89	13	4	2
「はい」の回答は82.4%、「どちらともいえない」の回答は12.0%、「いいえ」の回答は3.7%、「無回答・非該当」の回答は1.9%であった。自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
13. 利用者の要望や不満はきちんと対応されているか	80	19	5	4
「はい」の回答は74.1%、「どちらともいえない」の回答は17.6%、「いいえ」の回答は4.6%、「無回答・非該当」の回答は3.7%であった。自由意見では、「いつも改善策を真摯に考えていらっしゃると思います」「解答がしっかりある」「努力してくれていると思います」という声が寄せられていた。				
14. 第三者委員など外部の苦情窓口にも相談できることを知っているか	35	28	36	9
「はい」の回答は32.4%、「どちらともいえない」の回答は25.9%、「いいえ」の回答は33.3%、「無回答・非該当」の回答は8.3%であった。自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
15. 【過去1年以内に利用を開始し、利用前の説明を受けた方に】 サービス内容や利用方法の説明はわかりやすかったか	43	4	4	0
この質問は、回答者を限定したものです。過去1年以内に利用開始し、かつ利用開始前に説明を受けたと回答した家庭が51世帯あり、その中で、「はい」の回答は84.3%、「どちらともいえない」の回答は7.8%、「いいえ」の回答は7.8%であった。自由意見では、「とても分かりやすく、教育・心身の成長にも心を配った熱意を感じました」という声が寄せられている一方、「1日の生活の流れで説明していただくと園生活がイメージできたと思います」「マイクなしの説明でまったく聞こえませんでした」という意見が寄せられていた。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7、8)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 9/9
	評価項目1 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している 評点(0000)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を明示している ○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	●あり ○なし	3. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	●あり ○なし	4. 重要な意思決定や判断に迷ったときに、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を思い起こすことができる取り組みを行っている(会議中に確認できるなど) ○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(00)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している ○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(000)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている ○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている ○非該当

カテゴリー1の講評

園の理念や方針は、職員や保護者、利用希望者に向けて周知されている

保育園の理念や運営方針、基本方針、保育目標などは、区の入園案内やホームページ、パンフレットなどに掲載して幅広く周知されている。

職員へ当園の理念や目標の周知については、入社時研修や保育課程、「保育園業務マニュアル」「桂坂保育室運営確認事項」などで、確認されている。保護者や入園希望者には、入園案内やリーフレットなどを使って新入園児面接会や保護者会などの場や見学時に説明されており、園内掲示や園だよりでも伝えられている。

経営層としての役割や責任の職員周知は、綿密な仕組みのもとに行なわれている

経営層の役割や責任、園の体制などは、組織図や「保育園業務マニュアル」「桂坂保育室運営確認事項」などに明記されており、新年度の職員会議の際には、組織としての年間目標や方針を説明されている。

経営層は園内外での日常の業務の推進に加え、職員面談や保護者面談(個人面談)も行ないながらリーダーとしての役割を果たしており、自己査定や自己評価の際にも役割や責任の確認を行なっている。

園運営にかかわる重要事項は、手順を明らかにして検討し、決定されている

組織全体の構造は「保育園業務マニュアル」に示されている。また、園運営に関する重要事項に関しては、法人の諸規程に沿ったルールのもとに意思決定が行なわれている。当園の保育運営に関する重要な案件は、各種の職員会議や昼礼、係活動などの場で話し合って決定し、合同職員会議で資料を使って説明されている。職員は施設の3棟に分散しているが、いずれかの会議で必ず意思決定に関わっており、経緯を含めた内容は全職員へ周知されている。保護者には、園だよりや保護者会、お知らせなどの書面の配布などにより、逐一伝えられている。

2			カテゴリー2	
2			経営における社会的責任	
			サブカテゴリー1(2-1)	
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる			サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	
			4/4	
評価項目1			評点(〇〇)	
社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している				
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している		○非該当	
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるように取り組んでいる		○非該当	
評価項目2			評点(〇〇)	
第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている				
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる		○非該当	
●あり ○なし	2. 透明性を高めるために、地域の人の目にふれやすい方法(事業者便り・会報など)で地域社会に事業所に関する情報を開示している		○非該当	
			サブカテゴリー2(2-2)	
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている			サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	
			7/7	
評価項目1			評点(〇〇)	
事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある				
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、個別相談など)		○非該当	
●あり ○なし	2. 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性をいかした企画・啓発活動(研修会の開催、講師派遣など)を行っている		○非該当	
評価項目2			評点(〇〇〇)	
ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している				
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している		○非該当	
●あり ○なし	2. ボランティアの受け入れ体制を整備している(担当者の配置、手引き書の作成など)		○非該当	
●あり ○なし	3. ボランティアに利用者のプライバシーの尊重やその他の留意事項などを伝えている		○非該当	
評価項目3			評点(〇〇)	
地域の関係機関との連携を図っている				
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 地域の関係機関のネットワーク(事業者連絡会など)に参画している		○非該当	
●あり ○なし	2. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている		○非該当	

カテゴリ2の講評

区や法人の規則に沿った、法や規範、倫理などのコンプライアンスの仕組みが整っている

コンプライアンス(法令遵守)の面では、法人と区のマニュアルなどに保育園職員としての姿勢が明示されており、職員はこうした資料を活用しながら、姿勢や心得、服務、守秘義務の遵守、情報開示などを学習している。内部監査も実施して透明性を高めており、臨時職員や派遣職員には簡単なプリントで周知を図っている。

地域に対しては、福祉サービス第三者評価を実施して結果を公表し透明性を高めており、区の支所にも各種の案内を置いている。

港区緊急暫定保育施設のなか、地域連携を育む独自の地域支援活動が行なわれている

地域連携の面では、行政の支部会議や関係施設園長会のほか、児童支援の関係機関との会議も開催して連携を図っている。

保育の専門性を地域に還元する取り組みの面で、当施設は「港区緊急暫定保育施設(以下、「暫定保育室」とする。)」として運営されている関係から地域活動には制限があり、また、施設が3箇所に分散立地している関係から、安全面を考慮すると大きな制限がある。しかし、その環境下でも、保育講演会や育児相談、園庭遊びなどを実施しており、地域貢献を果たしている。

「暫定保育室」という環境下にあるが、ボランティア活動が進められている

地域と連携したボランティア事業に関しての受け入れガイドラインが策定されており、実施体制を整えている。

「暫定保育室」という性格から、公的なボランティアの要請は見られないが、地域の高齢者との交流のほか、在園児の「パパの会」の企画でオーケストラの指揮者によるクラシックコンサートが実施され、地域の方も参加している。

ボランティアの受け入れに関しては、施設運営条件の範囲内で保護者や地域と連携した活動の継続に期待したい。

3			カテゴリ-3	
利用者意向や地域・事業環境の把握と活用			サブカテゴリ-1(3-1)	
利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	
評価項目1 利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む)			8/8 評点(〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		○非該当	
●あり ○なし	2. 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる		○非該当	
評価項目2 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる			評点(〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる		○非該当	
●あり ○なし	2. 事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している		○非該当	
●あり ○なし	3. 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる		○非該当	
評価項目3 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している			評点(〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズの収集(地域での聞き取り、地域懇談会など)に取り組んでいる		○非該当	
●あり ○なし	2. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)の収集に取り組んでいる		○非該当	
●あり ○なし	3. 事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している		○非該当	
カテゴリ-3の講評				
<p>利用者の意向を把握する仕組みを整えているので、周知の継続に努めてほしい</p> <p>園と保護者の信頼関係を高めて、利用者本位のサービスを提供するために、利用者の意向(意見・要望・苦情)を把握し解決することに努めており、「入園のご案内」に仕組みを解説している。また、園で円満に解決できない場合に中立公正な立場から相談や助言などを行ない、適切に解決するための苦情相談システムも掲載している。</p> <p>利用者アンケートでは苦情解決第三者委員の存在について、「はい(知っている)」の回答は32%に過ぎなかったため、保護者の周知が進むよう一層の取り組み推進に期待したい。</p> <p>保護者の意向やニーズを保育サービスの向上に活かしており、高い満足度を得ている</p> <p>サービスの質の向上に向けた取り組みの一環として、利用者の意向を集約して分析するために、行事後にアンケートを実施して意見を募っている。また、個人面談も随時行っており、利用者から見たサービスの現状と問題を把握や分析し、その結果を公表している。</p> <p>利用者の意向を受けてサービス向上に繋げた例として、親子遠足や運動会などの行事を乳児(0~2歳児)と幼児(3~5歳児)で分けて行うほか、不審者対応ネームプレートを活用するなど、様々なサービス向上への取り組みが行なわれている。保護者アンケートの総合的な満足度も非常に高かった。</p> <p>様々な情報収集活動が行なわれており、区や法人の力も借りて地域の特性を把握している</p> <p>福祉事業全体の社会動向や地域の福祉ニーズの収集などについては、区や各関係機関からの情報や法人の研究資料などを回覧して誰でも見られるようにしている。また、様々な情報をファイリングして、必要な時には、職員の誰でも活用できるようにしている。</p>				

カテゴリ4			
4	計画の策定と着実な実行		
サブカテゴリ1(4-1)			
実践的な課題・計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	11/11
評価項目1 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している			
評点(000)			
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 年度単位の計画を策定している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 短期の活動についても、計画的(担当者・スケジュールの設定など)に取り組んでいる		<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している			
評点(0000)			
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 課題の明確化、計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 計画は、サービスの現状(利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など)を踏まえて策定している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 計画は、想定されるリスク(利用者への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など)を踏まえて策定している		<input type="radio"/> 非該当
評価項目3 着実な計画の実行に取り組んでいる			
評点(0000)			
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 計画推進の方法(体制、職員の役割や活動内容など)を明示している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画推進にあたり、より高い成果が得られるように事業所内外の先進事例・失敗事例を参考にするなど の取り組みを行っている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを測る指標を明示している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んで いる		<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリ-2(4-2)

利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	4/4
--------------------------	----------------------	-----

評価項目1 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる	評点(〇〇〇〇)
-----------------------------------	----------

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や事業所内の役割分担を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 事故、感染症、侵入、災害などの事例や情報を組織として収集し、予防対策を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 事故、感染症、侵入、災害などの発生時でもサービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事故、感染症、侵入などの被害が発生したときは、要因を分析し、再発防止に取り組んでいる	○非該当

カテゴリ-4の講評

「暫定保育室」としての様々な課題をとらえ、綿密な計画を策定して事業を推進している

港区の保育園の中・長期計画は行政による地区単位の総合計画や保育計画が策定されていて、当園は「暫定保育室」として位置づけられている。また、法人でも中・長期計画を策定しており、視点を明確にした運営が進められている。さらに、事業年度の延長に伴い保育課程の改訂を行なっている。

年度単位では年間保育計画に加え、食育や栄養、防災、保健、行事などの各セクションで平成24年度の反省のもと、平成25年度計画を策定している。短期では、月案や週案、デイリープログラムなどが作成され、保育に展開されている。

流動的な厳しい保育運営環境のなかで、現場主体の事業が計画的に進められている

事業の実践の面ではサービスの現状を把握するために、機会を設けて保護者の意見を聞き、前年度の反省をもとに職員の業務負担や子ども、保護者への影響を考慮しながら、無理のないように進められている。

施設定員が毎年度変更されるなどの難しい運営環境の中にあっても、計画の進行状況を点検するために、企画書類を作成して保育室の運営形態や行事などの取り組みに対応するなど、多大な努力が見られる。また、保育の面では各クラスごとに月および期ごとに反省しながら、指導計画の見直しも行なっている。

防犯と危機管理の園内研修を通じた、安心・安全面での綿密な取り組みが実践されている

施設が3箇所に分散していることから防災や防犯については、綿密な避難訓練計画や衛生マニュアルなどを整備し、消防訓練や避難訓練を実施している。子どもの安全管理に向けて、職員が業務の内容や場面に応じて確認すべき事項をマニュアル類に定めており、施設内外の点検についてチェックリストを用いながら行なっている。危険項目や内容・防止策などをまとめて職員間で共有することにより、事故防止に力を入れて取り組んでいる。さらに、散歩先の公園や経路など、周辺地域の危険箇所図や散歩マップなどの作成にも取り組んでいる。

5			カテゴリ-5	
5			職員と組織の能力向上	
			サブカテゴリ-1(5-1)	
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	
			8/8	
評価項目1			事業所にとって必要な人材構成にしている	
			評点(000)	
評価	標準項目			
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方)を明示している		<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が必要とする人材を踏まえた採用を行っている		<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 適材適所の人員配置に取り組んでいる		<input type="radio"/> 非該当	
評価項目2			職員の質の向上に取り組んでいる	
			評点(00000)	
評価	標準項目			
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している		<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所の人材育成計画と職員一人ひとりの意向に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している		<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 個人別の育成(研修)計画は、職員の技術水準、知識、専門資格の習得(取得)などの視点を入れて策定している		<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員一人ひとりの個人別の育成(研修)計画に基づいて、必要な支援をしている		<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 職員の研修成果を確認し(研修時・研修直後・研修数ヶ月後など)、研修が本人の育成に役立ったかを確認している		<input type="radio"/> 非該当	
			サブカテゴリ-2(5-2)	
職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	
			7/7	
評価項目1			職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる	
			評点(000)	
評価	標準項目			
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している		<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる		<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる		<input type="radio"/> 非該当	

評価項目2

職員のやる気向上に取り組んでいる

評点(0000)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価・報酬(賃金、昇進・昇格、賞賛など)が連動した人材マネジメントを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど)を把握し、改善に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 福利厚生制度の充実に取り組んでいる	○非該当

カテゴリー5の講評

園の人材構成は法人の主導で進められており、園内人事も適切に行なわれている

園の人材確保や育成は法人の人材育成方針にもとづいて統括運営されており、人事制度に関する方針の策定や規程の作成、人材採用、人員配置、職員教育、福利厚生などが一括して行なわれている。また、法人の自己査定システムをもとに、職員の公平公正な評価が行なわれている。

園の各職員が自己点検や自己評価を行っており、職員への面談により、一人ひとりの希望や年度目標への取り組み姿勢を把握している。年3回、法人による査定が行なわれており、園長が確認してアドバイスをしながら、適切な人事管理が行なわれている。

職員資質の向上のための研修目標の設定と個人別育成の充実したシステムがある

職員の資質向上のために、法人と園独自の充実した研修受講のシステムが整っており、専門職として求められる具体的な技術の向上に向けた年間研修計画にもとづき、職員研修を実施している。育成計画については、個人別年間研修計画(個人シート)に自身の振り返りや自己目標などが盛り込まれており、園長との年2回のヒアリングが行なわれている。また、上長からの育成コメントが発信されている。研修参加者は、研修後に研修報告書を提出して知識の共有を図っており、毎年、総合的な研修発表会が開催されている。

法人の福利厚生策が実施されており、園長は日頃から職員のやる気向上を引き出している

職員の意欲向上策として、法人のシステムに沿ったマネジメントが行なわれている。また、人事考課や健康診断、研修受講、福利厚生などの体制が整っている。

各職員の持っている能力を最大限に発揮できる環境として、園長は職員の保育実践状況を常に見ながら、日頃から気軽に相談にも乗ることで、面談の際に良い点を伝えて職員のやる気を引き出している。

7			カテゴリ-7	
7			情報の保護・共有	
			サブカテゴリ-1(7-1)	
情報の保護・共有に取り組んでいる			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	
			7/7	
評価項目1 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる			評点(〇〇〇)	
評価	標準項目			
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定している		<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・保管している		<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保管している情報の状況を把握し、使いやすいように更新している		<input type="radio"/> 非該当	
評価項目2 個人情報、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している			評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目			
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している		<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 個人情報の保護に関する規定を明示している		<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 開示請求に対する対応方法を明示している		<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 個人情報の保護について職員(実習生やボランティアを含む)が理解し行動できるための取り組みを行っている		<input type="radio"/> 非該当	
カテゴリ-7の講評				
<p>情報の保護と共有は、法人のシステムに沿って適確に行なわれている</p> <p>情報の保護と共有に向けた取り組みは、区や法人の指導により運営されており、園で収集した情報はその重要性や機密性に応じて、アクセス権限やUSBなどの情報媒体の制限などが設定されている。また、施錠などの安全管理や規程にもとづく文書管理が徹底されている。園にはPC(パソコン)があり、役職用とフリーに分けて活用されていて、パスワードが設定されている。</p> <p>個人情報保護の充実した仕組みが整い、周知徹底に向けた取り組みが進んでいる</p> <p>個人情報保護法への対応面について園で扱っている個人情報は、「港区個人情報保護条例」と法人の方針のもと、適正な管理や運用がなされている。また、保護者への利用目的や規程の概要、開示請求の説明も入園説明時にわかりやすく行なわれていて、運用への承諾書も得ている。</p> <p>職員は研修で情報の保護の重要性を確認している。また、実習生やボランティアにも、個人情報保護について説明している。</p>				

カテゴリー8

8 カテゴリー1～7に関する活動成果

サブカテゴリー1(8-1)

前年度と比べ、事業所の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している

評価項目1

前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている
 ・カテゴリー1:「リーダーシップと意思決定」
 ・カテゴリー2:「経営における社会的責任」
 ・カテゴリー4:「計画の策定と着実な実行」

- 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない

改善の成果

施設運用面で行政と連携を図りながら、社会的意義の高い運営を行なっている

- ・施設の運用期間が延長され、5年を目標とした長期計画目標として、「子育てが楽しくなる子育て支援を行う」「心も体もしなやかでたくましい子を育てる」を掲げた。
- ・保護者間のつながりが深まるよう、施設内に保護者の交流掲示板を作成した。
- ・朝の登降園時には保護者がネームプレートを首から下げられるようになった。行事でも下げてもらっており、保護者からも誰の親か把握しやすくなったと好評を得た。

サブカテゴリー2(8-2)

前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している

評価項目1

前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている
 ・カテゴリー5:「職員と組織の能力向上」

- 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない

改善の成果

職員の能力向上の面で関連施設の見学学習を行ない、成果を上げている

- ・他園に施設見学に行き学べるよう、施設の選定や受け入れの交渉を行ない、社会福祉法人の認可園や公立園の施設見学など、港区内の施設数箇所保育見学や保育実習に行くことができ、成果を得た。

サブカテゴリー3(8-3)

前年度と比べ、福祉サービス提供プロセスや情報保護・共有の面で向上している

評価項目1

前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている
 ・カテゴリー6:「サービス提供のプロセス」
 ・カテゴリー7:「情報の保護・共有」

- 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない

改善の成果

園と保護者での様々な情報共有の面で成果を上げている

- ・日常の様子を可能な限り写真で紹介したり、CDに収めて貸し出したり、ビデオを上映し、園の保育や園で過ごしている様子を伝えている。(保育の様子を記録したCDを、3か月に一度、期間を設けて貸し出しを行なっている)
- ・園便りに、園の様子が分かるように写真を載せるようにした。

サブカテゴリ-4(8-4)

事業所の財政等において向上している

評価項目1

財政状態や収支バランスの改善へ向けた計画的かつ主体的な取り組みにより成果が上がっている

- 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない

改善の成果

適正かつ計画的な財政運営が図られていて、成果を上げている

・予算の執行に関しては毎月の経営層による予算管理のもと、支出の無駄遣いを防止するために行事ごとに予算表を作成しながら運用を行なうなど、適切な対応が図られている。また、適正な運営を推進するための法人のチェックが機能していて、法人本部の適格な管理と指導を得て、適正かつ計画的な予算管理と執行が行なわれた。
 ・節電対策を行なうようにし、施設全体で意識して行なっている。

サブカテゴリ-5(8-5)

前年度と比べ、利用者満足や利用者意向の把握等の面で向上している

評価項目1

前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、利用者満足や以下のカテゴリで評価される部分において改善傾向を示している
 ・カテゴリ-3:「利用者意向や地域・事業環境などの把握と活用」

- 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない

改善の成果

利用者意向を受け止めて日々の改善に繋げ、成果を上げている

・利用者ニーズを受け、移動動物園と作品展の行事を増やしたところ大好評で、「ぜひ来年も」と多勢の要望があった。
 ・遠足と運動会は乳児と幼児組を分け、日程も別にした結果、どちらも時間的にしっかり遊べ、会場の混雑も避けられ、保護者にゆったり参加してもらえた。

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目		
サブカテゴリ1			
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(0000)	
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ1の講評			
<p>園の情報は法人や区のホームページおよびリーフレットから入手できる 入園または見学を希望する利用者への情報は、法人や区のホームページや各支所の窓口から入手できる。 見学及び来園者には入園のしおりから抜粋したリーフレットを配布している。希望があれば献立表も渡している。</p> <p>法人のホームページやリーフレットは写真の貼付やカラーで作成している 利用希望者や来園者に向けた情報(区のホームページ)には、園の所在地や園の概要、目標、事業内容などが記されている。法人のホームページには、園の概要のほか、園で行なわれているイベント(行事)を、写真を活用してわかりやすく伝えている。区の保育園入園の案内は、英語でも作成しており、外国籍の方にも対応できる準備が整っている。リーフレットはカラーで作成し、理念、概要、見取り図を分かりやすく記載している。</p> <p>見学者へパンフレットをもとに園舎の特徴や運営理念について丁寧に説明している 見学の問い合わせについては、希望日時を確認し園の状況を考慮した上で日程を調整して受け入れている。可能であれば、子どもが午前中に活動している時間をすすめている。 見学者の対応は主に園長や副園長が行ない、リーフレットをもとに理念や方針、特徴、保育内容について丁寧に説明している。特に理念「五感で感じる保育」の園の想いを具体的に伝えている。園舎を回りながら育児相談にも応じている。</p>			
サブカテゴリ2			
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(000)	
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービス開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー2の講評		
入園説明会で「重要事項説明書」をもとに園の理念や保育内容について説明している 入園内定後、区から児童票や保護者勤務調べ、アレルギー希望調査などの書類が送付されるとともに、入園説明会(個人面談)の日程を知らせ、書類の記入を依頼している。入園説明会では園長が「重要事項説明書」をもとに、法人の運営理念や園の基本ルールについて説明している。個人面談では書類の確認と子どもの生活状況などを詳しく聞き取り、重要事項の読み合せ、説明、質疑応答、看護師が保健の事項、担当保育士が面接、栄養士がアレルギーや食事相談を受け、事務員が緊急メール登録の仕方を説明している。 一人ひとりの子どもや保護者が安心できるような援助をしている 入園後の子どもの不安やストレスが軽減されるように、保護者の要望に合わせて慣らし保育を実施している。子どもが安心できるよう担当制をとり、一人ひとりと十分にスキンシップをすることを心がけるとともに、保護者には園での様子を詳しく伝えている。転園児については保護者の了解を得て、電話で保護者の情報を話し、書面が必要か確認し必要なときに相互で連絡を取り合い送付している。また、退園児や卒園児には、夏まつりや運動会の行事の案内を送付している。運動会に転園児も参加可能なプログラムを設けている。		
サブカテゴリー3		
3	個別状況に応じた計画策定・記録	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	<input type="radio"/> 非該当

評価項目2

子どもの様子や保護者の希望、関係者の意見を取り入れた指導計画を作成している

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 計画は、保育課程を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画は、子どもの様子や保護者の希望を尊重して作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	4. 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直ししている	○非該当
●あり ○なし	5. 計画を緊急に変更する場合のしきみを整備している	○非該当

評価項目3

子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしきみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当

評価項目4

子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○非該当

サブカテゴリー3の講評

法人の運営方針にもとづいた保育課程を作成し、指導計画に反映している

法人の理念や運営方針に沿い、園の基本方針と目標を定め、保育課程をもとに年間指導計画を作成している。具体的な保育活動については月案や週案の中で表現している。計画は定期的に振り返りを行なうとともに、個人面談の実施や年度当初の保護者会などの機会を捉えて意向や希望を把握した上で、個々に合わせて計画変更、見直しをしている。保護者から把握した意向や要望は、具体的な支援内容と子どもの様子は日誌に記録し、定期的に子どもの成長や発達の経過や配慮事項を児童票に記入している。

子どもや保護者の情報は昼礼で報告するとともに、議事録に残し職員間で共有している

計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用するために、毎日の昼礼(13時30分から)で、クラスリーダーが集まり子どもや保護者の情報を職員間で共有している。内容はクラスノートに書き留めて出席できなかった職員に伝えている。欠席者にも分かるように議事録を作成し、閲覧後は確認のサインをする仕組みがある。14時00分より定期的にクラス打ち合わせを設け話し合っている。また、栄養士、看護師を含め職員会議を毎月1回行なっており情報を共有している。

子どもの成長のめやすを保護者にわかりやすく伝えることを推し進めてほしい

各クラスの年間目標については、年度初めの懇談会などで保護者へ伝えている。週案については毎週クラスに貼りだしている。0~2歳児と支援を要する子どもについては、毎月一人ひとりの状態に応じた指導計画を作成している。年齢ごとのねらいについては、保護者へ伝える良い仕組みができていたので、「一人ひとりの保育のねらい」を保護者の状況に応じてわかりやすく伝えることを推し進めてほしい。

サブカテゴリー5

5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	7/7
---	--------------------	-------------------	-----

評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)
------------------------------	--	--------

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている	○非該当

評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇〇〇)
--	--	-----------

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に予防・再発防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	5. 虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関に連絡し、その後も連携できるような体制を整えている	○非該当

サブカテゴリー5の講評

個人のプライバシーに関しては、入念な配慮が行なわれている
 子どもに関する情報に関しては、保護者の意思を確認しており、個人情報の取り扱いについては、「承諾書」、写真データ提供については、「同意書」などの書面で事前に確認をとっている。また、園内でも子どもの名前が記載された書類は裏返しにしておくなどの細かな配慮も見られる。

子どもの羞恥心に配慮した支援を行なうための取り組みとして、衣服の着脱やオムツ替えの際には、パーテーションを使用している。また、夏の水遊びのための着替えを男女別室に行なっている。さらに、おねしょやおもらしの際には、さりげなく対応するようにしている。

一人ひとりの気持ちに引き合うことを大切にしている
 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重するために、子どもの声には耳を傾け、少しでも子どもの気持ちに寄り添えるよう配慮している。また、子どもの興味や意欲を大切に、好きな遊びを自分で選んで、じっくりとあそべるような環境づくりを心がけている。子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行なうために、入園時の面談や送迎時のコミュニケーションを通して各家庭の価値観や生活習慣を把握し、保護者と相談のうえで、個別対応が必要な場合には十分配慮している。

子どもの権利を守ることができるように研修の充実を図っている
 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、港区より講師を招いたり、研修を通して支援策を学んでいる。子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行なわれることのないようにするために、職員で園内研修のチームを作成し、日常保育のビデオを撮って言葉がけの園内研修を行なったり、園長や副園長が園内を巡回し、子どもへの関わり方を指導したりしている。虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、園長に報告し、子ども家庭支援センターに連絡することになっている。

サブカテゴリ-6

6 事業所業務の標準化

サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況

11/11

評価項目1

手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

評点(000)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを点検している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目2

サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点(000)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

評価項目3

さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している

評点(00000)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員全員が、子どもの安全性に配慮した支援ができるようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリー6の講評

業務のレベルアップ(標準化)への様々な取り組みが積極的に進められている

業務のレベルアップ(標準化)のために法人作成の総合的な「保育園業務マニュアル」が作成されており、各種の部門別マニュアルやチェックリスト類も法人で検討して作成されている。
園内では必要に応じて様々な資料の読み合わせが行なわれており、周知が必要な場合は昼礼やノートなどを使って周知の徹底を図っている。さらに、法人による内部監査も毎月実施されている。

業務水準確保の取り組みは日常的に行なわれている

園内での業務水準の見直しの取り組みについては、上記のシステムに沿って行なわれている。マニュアルやチェックリストなどは、法人園長会などで毎年検証されている。また、現場からの声を反映させながら、毎年度末に改訂や新規作成を行なって、最新版を事務所に配置している。平成24年度の反省をもとに、職員が気付いたところやルール改善を行ない、保護者にも協力してもらっている。
独自には、子どもと保護者の動線を考慮して、平成25年度受け入れ方法の改善を図っている。

保育サービスの提供面で、指導や助言、相談が日々行なわれている

業務の一定水準を確保して行くために、クラスや会議で報告し検証を行なっている。また、指導計画や業務の手順などを話し合い、業務推進に漏れのないよう努めている。職員全体が情報の共有やサービスのレベルアップ(標準化)に努めており、日常的な管理業務に関しては職員がチェックリストなどをもとに点検し経営層が確認している。指導や助言の面では、園長から年数回の職員面談の場でシートなども使っている。チューター職員による現場での保護者対応、児童票や保育日誌の作成などについての指導や助言のシステムも稼働している。

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

		サブカテゴリー4	
サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	
		34 / 34	
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた援助を行っている			
		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりの発達の過程や生活環境などにより子どもの全体的な姿を把握している		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人やものに働きかけることができるよう、環境構成を工夫している		○非該当
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう援助している		○非該当
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつぎ等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている		○非該当
評価項目1の講評			
<p>一人ひとりの子どもが落ち着いて遊べるような環境が作られている</p> <p>子ども一人ひとりの全体的な姿を把握するために、個人面談や連絡帳などを活用するほか、保護者との連絡もれがないように、様々な書式を活用している。</p> <p>子どもが主体的に周囲のものに働きかけることができるようにするために、保育室の環境にはさまざまな工夫がみられる。遊具は、静かな遊びと動的な遊びのコーナーを分けるだけでなく、少人数でじっくり遊べるように、遊具を数箇所配置し、保育室全体をうまく活用している。また、人への働きかけとして、幼児クラスでは異年齢保育の特性を活かし、異年齢との組み合わせで当番活動を取り入れている。</p> <p>年齢の違いや国籍の違いを自然に理解できるような保育が行なわれている</p> <p>子ども同士が年齢の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう援助する取り組みとして、幼児クラスは日頃から異年齢構成で過ごす縦割り保育を実施している。</p> <p>子ども同士の文化・習慣の違いなどに関して、子どもたちは、多数入所する外国籍の子どもたちと過ごす中で、言葉の違いや食文化の違いを自然に感じ取っている。また、子どもたちの異文化への興味や関心を高めるために、運動会のテーマを「世界旅行」にして取り組んでいる。さらに、週1回の英語プログラムでは、歌やゲームを中心に、楽しみながら英語に触れている。</p> <p>子どもの気持ちに寄り添った保育が行なわれている</p> <p>特別な配慮が必要な子どもの保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるようにするために、発達に合わせた環境での保育が行なわれ、区から臨床心理士が定期的に巡回して、職員と共に発達チェックを行なっている。</p> <p>発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(かみつぎ)などに関しては、互いの気持ちに寄り添いながら、それぞれの気持ちを受け止め、対応するようにしている。また、毎日行なわれる昼礼会議の中で報告し、情報を共有している。さらに、「アクシデント報告書」に記録し、専門家からのアドバイスを仰ぐこともある。</p>			
2 評価項目2 家庭と保育所の生活の連続性を意識して保育を行っている			
		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している		○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう支援を行っている		○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している		○非該当
●あり ○なし	4. お迎え時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている		○非該当

評価項目2の講評

保護者からの連絡を確実に引き継ぐことができるように、体制を整えている

登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認するために、棟ごとに受け入れ対応の職員を決めている。子どもの機嫌や体調など、対応職員が把握した情報は、「生活記録簿」や「ライン表」という書式に記入するように統一されており、他の職員に口頭でも伝えている。また、連絡帳の確認や視診も欠かさず行ない、看護師も毎朝巡回している。さらに、保護者にも、「保育時間変更表」や、「欠席変更表」などに記入してもらうことで、連絡もれのないように徹底している。

子どもの意欲を尊重しながら、基本的な生活習慣の自立をめざしている

発達の状態に応じ、基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくように支援するために、子どもの意欲を大切にしながら必要に応じて補助を行なっている。散歩から帰った際には、上着や靴下などを自分で片付けしやすいうように動線が考えられ、年齢にあわせて取り組みやすいように工夫している。

休息の長さや時間帯は年齢や子どもの状況にあわせて考えられており、乳児クラスでは、天井の高さを考慮して天蓋を取り付けたり、幼児クラスは午睡の時間を「身体を休める時間」と考え、夜の睡眠に影響を与えないよう家庭と連携をとっている。

園での子どもの様子を伝えるための仕組みが整っている

お迎え時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えるために、0～2歳児と、3～5歳児の希望者には園での様子を各自の連絡帳に記入している。また、幼児クラスは、クラスごとに1日の様子を記入してホワイトボードに掲示して伝えている。他の連絡事項に関しても、保護者が見やすいように、掲示するスペースを1箇所にとまとめている。さらに、担任でなくても、保護者対応職員が記録表をもとに口頭で伝えられるように仕組みを整えており、園長や副園長など、他の職員も積極的に子どもたちの様子を伝えるように心がけている。

3 評価項目3

日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している

評点(〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の保育の内容は保育目標を反映して構成されている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	4. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当

評価項目3の講評

職員が手本となって心身の育成をめざしている

日常の保育の内容に保育目標を反映するための取り組みとして、情緒の安定を基盤として自立に向けた支援に努め、子どもの意欲を育んでいる。また、挨拶に力を入れており、ただ挨拶するのではなく、立ち止まって相手の目を見ながら丁寧な挨拶を行なうことを心がけ、職員が子どもの手本となるように配慮している。さらに、「好奇心にあふれ探求心旺盛な子」の目標の実践にむけて、園内のいたるところに子どもの好奇心を誘うような仕掛けが施されている。

子どもが興味を持った遊びに集中できるような環境設定が行なわれている

子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をするために、保育室の空間にカーテンを吊るして集中できる空間を確保したり、棚やカーペットを活用し、遊具を分散してコーナーを数箇所設定することにより、少人数でじっくりと遊べるような工夫が行なわれている。

子どもが、集団活動に主体的に関われるようにするための取り組みとしては、子どもの気持ちに寄り添い、そばについて興味を誘うように配慮している。また、友達との関係も大切に考えており、友達から誘いかけられ、意欲を引き出せるようにも対応している。

身近に感じることができる四季折々の姿を、伝えるための工夫がある

戸外・園外活動の際に、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れるために、玄関に「桂坂保育室の四季」と称して、園で実際に見ることができた鳥やヒキガエルの卵の写真など四季折々の写真を掲示し、子どもや保護者の興味を誘っている。また、園庭には季節ならではの花や木が植えられていたり、暖かくなると、専用のスペースに泥んこ遊び用の土が用意される。さらに、園庭の一角にはビオトープが設置されており、昆虫たちの自然な姿がいつでも観察できるように工夫されている。

4 評価項目4 行事等を通して、日常の保育に変化と潤いを持たせるよう工夫をしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが興味を持ち、自ら進んで取り組めるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 行事等を行うときは、保護者の理解が得られるような工夫をしている	○非該当
●あり ○なし	4. 保育所の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当

評価項目4の講評

子どもの興味や意欲を大切に考えながら行事をつくりあげている

みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事として、夏祭りや運動会、生活発表会などを行なっている。運動会の万国旗や入退場門などは子どもたちの作品で仕上げている。

子どもが興味を持ち、自ら進んで取り組めるような行事などを行なうために、子どもたちが興味を持っていることを把握し、子どもたち自身の意見を大切にしている。クリスマス会で披露したハンドベルも子どもたちの選曲で演奏した。また、ひな祭りやお月見会など、伝統的な行事ではその由来を伝えたり、その季節ならではの素材を使ったりするなどして工夫している。

保護者と、子どもの成長を共有できるようにするための配慮がある

行事などを行なうときは、保護者の理解が得られるようにするために、クラスだよりにて、行事に向けての取り組みなどを伝えている。また、行事の日程に関しては、仕事を持つ保護者が参加しやすいように、土曜日や日曜日に設定し、年度初めに「年間行事予定表」を配布している。また、大型園で人数が多いため、遠足や運動会などは別日で2回に分けて設定し、親子でじっくり楽しめる内容の工夫を行なっている。さらに、夏祭りでは、出店やゲーム、盆踊りなど、保護者も一緒に夏のひとときを楽しみ、子どもの成長を共有できるように配慮している。

地域の方々との関わりを持つことができるような取り組みがある

保育所の行事に地域の人の参加を呼びかけたり、地域の行事に参加するなど、子どもが職員以外の人と交流できる機会をもつために、子どもたちで夏祭りのポスターを作成して掲示したり、近隣の住民を訪問して子どもたち自身でチラシを配るなどの機会を設けている。このような、地域の方との交流に取り組むことで、子どもの生活の幅や興味を広げている。また、園に移動動物園を招いた際には、近隣の保育園や退園児にも参加を呼びかけている。さらに、7月に行なわれた地域の「打ち水大作戦」にも参加している。

5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 年齢の違う子どもとも楽しく遊べるような配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの様子を確実な方法により職員間で引き継いでいる	○非該当
●あり ○なし	4. お迎え時には、子どもの日中の様子(担任からの引き継ぎ事項等を含む)を保護者に直接伝えている	○非該当

評価項目5の講評

子どもが安定して過ごすことができるようにするための工夫がある

保育時間の長い子どもが、くつろげる環境になるよう配慮をするために、早朝や延長の時間帯には、子どもの人数が多くなりすぎないようにするために、状況に応じて同年齢でも複数の部屋に分けるなどの対応をとり、落ち着いて、ゆったり過ごせるように配慮している。また、早朝や延長を担当する職員を年間で専任とすることにより、子どもの情緒の安定を図っている。さらに、補食や夕食の際にも落ち着いてゆっくり食べられるよう、時間をずらして対応している。

縦割り保育を基本としているため、異年齢とも自然な関わりを楽しんでいる

年齢の違う子どもとも楽しく遊べるように、幼児クラスは日頃から、異年齢で過ごす縦割り保育を基本としている。また、年齢の異なる子どもとペアを組んで、給食の「いただきます」の挨拶をしたり、水やり、えさやりなどを行なう当番活動も取り入れているため、年齢が違う子どもとも、日頃から自然に関わりを楽しむことができている。さらに、今後は延長保育の時間だけ遊ぶことができるような、特別感を持った遊具の用意も検討中である。

子どもの様子を確実に伝えるための仕組みがある

子どもの様子を確実な方法により職員間で引き継ぐために、「生活記録簿」や「ライン表」、ホワイトボードなどを活用するとともに、屋礼や職員会議で情報を共有している。

お迎え時には、子どもの日中の様子を保護者に直接伝えるための取り組みとして、0～2歳児クラスや3～5歳児の希望者には連絡帳を用意し、園での様子を記入している。また、クラスの様子がわかるようにホワイトボードに「一日のご様子」を掲示すると共に、遅番職員が口頭で伝達している。

6 評価項目6

子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保育所の食育に関する取り組みを、保護者に対して伝える活動をしている	○非該当

評価項目6の講評

クラシックなどの音楽を流すなど雰囲気を変えて楽しく食べられるようにしている

子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りとして、A棟(1・2歳児)では11時30分から12時30分までクラシック音楽を流している。C棟(3～5歳児)ではクラスごとに音楽を流している。C棟では机上遊びからの移行に伴い、テーブルクロスをかけて食事をしている。また、年齢や発達に合わせた机やイスなどを設置し、食具は個々に合わせて用意している。自分で配膳して量を調節することで、自分の適量を知り完食する喜びに繋げている。

給食は法人の献立で提供し行事食では盛り付けなど見た目も楽しめるように工夫している

献立は法人の独自献立で、季節ごとの旬の食材を取り入れ、栄養バランスに配慮した給食を提供している。特別ランチの日にはご飯を動物やキャラクターの顔の形にするなど、見た目も楽しめるように工夫している。誕生会ではおやつにケーキを作り子どもの楽しみとなっている。

食物アレルギーのある子どもについては、提供時にトレーの色分け(食物アレルギーのある子どもがいるクラスでは全員トレーを使用している)や別テーブルを準備し、副園長(副施設長)によるの前日確認や配膳前には複数者でチェックし誤食防止に努めている。

栽培から収穫して調理まで一連の流れを通して食への興味を高めている

食についての関心を深めるために、「食育年間計画」にもとづき野菜の栽培、クッキングなどを行なっている。野菜の栽培では、苗(種)の植え付けから、収穫、調理までの一連の流れを通して食への興味を高めている。園庭でサツマイモを育て収穫(4・5歳児は芋ほり遠足で収穫)したときには、2歳からクッキングに参加して「蒸しパン」を作った。2歳児は蒸した芋をつぶす、3・4歳児は生地づくり、5歳児は包丁を使って切るなど年齢ごとに担当分けしている。尚、園で栽培した野菜などは、放射能検査を行ない安全を確認してクッキングに使用している。

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう支援を行っている		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. けがや病気を防止するため、日頃から身の回りの危険について子どもに伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに対し、専門機関等との連携に基づく支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者に対して感染症や乳幼児突然死症候群(SIDS)等に関する情報を提供し、予防に努めている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>横断歩道や足型、歯の模型など子どもにわかりやすく伝える工夫をしている けがや病気を防止するため、日頃から身の回りの危険について子どもに伝えるために、戸外で遊ぶ前には年齢に応じた言葉で約束や危険個所の確認をしている。交通安全集会の実施後に0棟の階段下に横断歩道、水道のところに足型を添付し、一度立ち止まることや並ぶことを見てわかるように伝えている。 子どもの健康については、曲に合わせた手洗いや看護師や歯科医師による正しい歯みがきの仕方などを指導している。歯磨きについては歯の模型を手作りし(カエル型やペットボトルを活用した歯型など)、わかりやすく伝える工夫をしている。</p> <p>看護師(2名)を中心に、子どもに対する適切な医療的ケアを行なう体制が整っている 医療的なケアが必要な子どもに対し、専門機関等との連携のほか、嘱託医による健康診断(0歳児は月2回、1・2歳児は毎月、3～5歳児は年2回)や年2回の歯科健診などを行なっているほか、4・5歳児は視力検査をしている。 今年度より看護師2名常駐しており、子どもへの衛生指導や感染症対策が丁寧に行なわれている。また、看護師によるアナフィラキシー補助治療薬緊急キットの取り扱い研修を行ない、食物アレルギーを持つ子どもに対して適切な対応ができるようにしている。</p> <p>入園時に感染症やSIDSについての情報を伝え、入園後の予防に努めている 保護者に感染症や乳幼児突然死症候群(SIDS)などの情報提供や予防に努めるために、「入園のご案内(重要事項)」や「入園のしおり」に感染症(種類や症状など)やSIDS(注意事項や対応方法など)についての情報を記載している。SIDSの予防のために看護師が呼吸とともに体に触って確認するように職員へ指導している。感染症流行時にはホワイトボードに掲示をして予防に努めている。保健だよりでも感染症についての情報を提供している。看護師が常駐していることから、保護者への説明も医療従事者としての視点から答えることができている。</p>		
8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(00000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して接している	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 保育所の保育に関して、保護者の考えや提案を聴く機会を設け反映させている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの発達や育児などについて、懇談会や勉強会を開催し、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当

評価項目8の講評

保護者一人ひとりの話を聞く機会を設けるとともに、子どもの様子を映像で伝えている

保護者に子育てや就労など個々の事情に配慮するために、入園面接時に保護者の状況を確認している。急な残業などの保護者の事情については、その都度柔軟(延長保育)に対応している。一部行事は日曜日に行なうなどの配慮をしている。
保護者と職員の信頼関係が深まるように、年に2回、個人面談を行い保護者一人ひとりの話を聞く機会を設けているほか、保護者会を増やし、プロジェクトやビデオを活用して、日常の子どもの様子を上映するとともに、幼児は保育参観を行なっている。また、園での子どもの様子はCD-Rに入れ貸し出しを行なっている。

コミュニティーボードを設置し、保護者同士の交流を後押ししている

保護者同士が交流できる機会として、保護者会、各行事への参加などの場を設けている。コミュニティーボード(ホワイトボードで保護者が自由に書き込みをすることができる)を設け保護者の子育ての悩みなどについて相談などができるように後押ししている。
保護者との共通認識を得る取り組みとしては、子育て講演会を開催し、外部講師を招き0~2歳児の育児とそれにかかわる育児について講演してもらった。降園時には「挨拶+一声」することを大切にし、職員側からの働きかけを積極的に行なうようにしている。

9 評価項目9

地域のニーズに即した子育て支援を実施している

評点()・非該当3

評価	標準項目	
○あり ○なし	1. 地域における在宅子育て家庭のニーズに応じた子育て支援事業を実施している	●非該当
○あり ○なし	2. 地域における在宅子育て家庭同士が交流できるような支援を行っている	●非該当
○あり ○なし	3. 提供している子育て支援事業の評価・見直しをしている	●非該当

評価項目9の講評

保育事業の対象年齢や定員について見直しが図られる中、保育の安定を図っている

待機児童解消に向けた区の実施で定員の見直しが図られる中、安定した保育を実施している。また、子育て支援事業については、区立保育園で実施している「保育園であそぼう」等の事業は行なっていないが、育児相談を通じ地域のニーズに応えている。
また、保護者の「パパの会」を通じた地域とのふれあいも行なわれている。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	5-1-2	職員の質の向上に取り組んでいる
タイトル①	職員の人材育成の面で、職員と組織の力が存分に発揮されている	
内容①	職員の個別育成の面では、個人別の年間研修計画シートを使って、職員としての成長目標や研修参加の目的、期反省などを個別に作成している。法人の強力なバックアップのもと、研修履歴もデータベース化されており、それらをもとに園長および施設長が期のアドバイスおよび研修計画に対するアドバイスを明記して、優れた職員個人別育成計画をベースに適切な職員育成が実践されている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-1	子ども一人ひとりの発達の状態に応じた援助を行っている
タイトル②	保育室や廊下、園庭の随所に環境整備の目が行き届いている	
内容②	家庭のようにあたたかみのある環境づくりを意識し、廊下には、布や枝など自然の素材を用いた手づくりの装飾が施され、子どもの作品は大きなタペストリーに飾られている。また、観葉植物が随所に置かれ、カーテンや天蓋を取り付けて落ち着ける雰囲気を作り、玩具の提供とともに、ゆったりと遊べるように配慮されている。さらに園庭には、地域の企業の協力を得て作成した小さなお庭「ビオトープ」が用意され、子どもたちが自然に直接触れることができ、五感を使って好奇心を高めるような工夫が多々盛り込まれている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目		
タイトル③		
内容③		

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	地域の特性を活かしたテーマで運動会を盛り上げている
	内容	外国籍の子どもが1割近く在籍している特徴を活かし、運動会は「世界旅行」というテーマを持って開催された。会場は子どもたちが協力して作り、実際に通っている子どもたちの国の旗や、民族衣装が描かれた入退場門で飾られた。また、「世界旅行」というテーマは競技内容にも盛り込まれており、かけっこで日本を飛び出し、次の競技ではハワイに着いてダンシングという風に各種競技がストーリー仕立てに構成され、最後は、「世界一周」と題されたリレーで締めくくられている。さらに、皆一体となって楽しめるように卒園児の参加枠も設けられている。
2	タイトル	野菜の苗(種)の植え付けや収穫・調理(クッキング)までの過程を通して食への興味・関心を高めている
	内容	食育への取り組みとして、野菜の苗(種)の植え付けから収穫・調理(クッキングは毎月)までの一連の流れを通して、食への興味・関心を高めている。園庭でサツマイモを育て収穫(4・5歳児は芋ほり遠足で収穫)したときには、2歳からクッキングに参加した「蒸しパン」作りで、年齢ごとに担当わけをして取り組んでいる。収穫後の芋づるは、クリスマスのリース作りに活用した。また、「餅つき」では玄関に「蒸す前の米」「蒸した米」「ついた餅」を展示して触れるようにしている。乾燥させた餅は揚げ餅にして、おやつに提供している。
3	タイトル	若い職員の手をうまく引き出すとともに自らのやる気を培うことで、さらなる保育サービスの面でのレベルアップが期待できる
	内容	園舎内の環境整備は園長の丁寧な指導のもと、「家庭的な雰囲気」づくりを心掛け、各保育室ともに年齢にあった玩具やコーナーは、遊びと生活の導線を考慮し設置している。子どもの作品は壁にタペストリーを下げて展示するなど、見せる工夫が見受けられる。看護師は歯の模型(カエル型やペットボトルを活用した歯型など)を手づくりして、子どもたちにわかりやすく伝えるなど、若い職員の手をうまく引き出し、また、自ら工夫するなどの様子が窺えることから、今後ますます職員が成長して行くことで、保育サービスの面でのレベルアップが期待できる。
No.	今後の課題と思われる点	
1	タイトル	待機児童の受け入れという社会的価値の高い大きな波を乗り越えてほしい
	内容	当園は区の待機児童解消の推進に寄与している社会的価値の高い施設である。また、園では経営層の交代があり、新園長の強いリーダーシップのもと、職員がその考えを理解し、人間力と言う面で組織の強化が図られた。利用者の定員規模が300人弱まで拡大することとなり、大きな波を迎えようとしている。職員の増加や物的環境面での対応も必要であるが、より一層綿密な対応を図り、局面を乗り越えてほしい。職員育成のさらなる充実も必要であり、若い職員への保育能力の強化には、法人の総力を持ってあたってほしい。
2	タイトル	園舎が3箇所に分散している特殊な状況下にあるので、ヒヤリハットの掘り起こし、情報共有、総合分析を継続して進めてほしい
	内容	安全環境面への対応には法人ぐるみで力を入れて取り組んでおり、運営方針にも安全・安心が明記されていて、大半の職員が「幼児安全法支援員」の資格を有している。アレルギーチェックが綿密に行なわれており、ヒヤリハットの掘り起こしも力を入れて進められており、「共有ボード」を作成し、掲示して、昼礼で報告することで情報の共有に努めている。園舎が3箇所に分散している特殊な状況下にあるので、今後はそれらを総合的に分析して、現場にフィードバックしていくことのシステム化をさらに進め、安全管理の徹底を図ってほしい。
3	タイトル	個別指導計画の保護者説明用シートがあるので、職員の手をうまく活かして保護者との共育での意識共有を高めてほしい
	内容	クラスの月のねらいについては、毎月配布しているクラスだよりで先月の振り返りとして、ねらいに対する子どもたちの姿を記載するとともに、その月のねらいと配慮を記載して保護者へ知らせている。個別の指導計画は0～2歳児と支援を要する子どもについては毎月作成されている。年齢ごとのねらいについては、保護者へ伝える良い仕組みができてきているので、子どもの発達や成長を共に確認しながら子育ての視点を保護者と共有するために、「一人ひとりの保育のねらい」を保護者の状況に応じてわかりやすく伝えることを推し進めてほしい。